平成２８年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校　　Ｎｏ．１

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策）
１ 国際社会を生きる人材の育成を主眼として、個々の生徒に応じた進路実現を目指し、全国の国公立大学にチャレンジしていく生徒を増やす。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力､表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業において、一方的な講義形式による知識注入でなく、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る活動を行っている。 (ｱ) 毎時間行っている (ｲ) ほぼ行っている（７割以上） (ｱ)＋(ｲ)の合計がＡ　９０％以上　　Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上　　Ｄ　７０％未満	Ⓐ 前期：９２％	（成果と課題）ＩＣＴ機器を積極的に活用している教員の割合は９０％を超えており、アクティブ・ラーニング（ＡＬ）の手法を取り入れた授業も増えている。ＡＬの手法と知識注入型の手法を授業に効果的に組み込むことが課題である。 （後期の扱い）ＩＣＴ機器の活用、ＡＬの導入をさらに推進し、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る。
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が自ら課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ｱ) 授業や学校で与えられる課題以外に、独自の学習に取り組んでいる。 (ｲ) 授業や学校で与えられる課題に積極的に取り組んでいる。 (ｳ) 授業や課題には取り組んでいるが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (ｴ) どちらかというとその場しのぎの学習ばかりで、極端に悪い成績を取らない程度の学習状況である。 (ｱ)＋(ｲ)の合計がＡ　５０％以上　　Ｂ　４０％以上 Ｃ　３０％以上　　Ｄ　３０％未満	Ⓒ 前期：３５％	（成果と課題）各教科からの学習課題が、家庭での学習習慣の確立に繋がっていない。授業のなかで生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。 （後期の扱い）授業研究を通して、生徒の興味・関心を高めるような学習指導に取り組む。
	③ 国際共通語である英語でコミュニケーション能力を身に付けようとする態度と能力を育成する。	２年次１２月に受検するＧＴＥＣの本校の平均スコアが、前年１年次１２月に受検した同平均スコアに比べ、何点の伸びがあったか。 Ａ　５０点以上　Ｂ　４５点以上　Ｃ　４０点以上 Ｄ　４０点未満	１２月に実施	
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア 難関大学合格者数　　10名以上 イ 金沢大学合格者数　　60名以上 ウ 国公立大学合格者数　180名以上 合格者数が Ａ　ア・イ・ウの３指標すべてを達成 Ｂ　ア・イ・ウのうち、２指標を達成 Ｃ　ア・イ・ウのうち、１指標を達成 Ｄ　ア・イ・ウの３指標とも達成できず	３月に集計	
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、顧問を第２の担任と位置づけ、部活動指導の一貫として学習指導にも積極的に関わる。	第２の担任という立場で、部活動指導の一貫として生徒自らが学習に向かう姿勢と環境を整えているか。 (ｱ) 十分整えている (ｲ) ほぼ整えている (ｳ) あまり整えていない (ｴ) 整えていない (ｱ)＋(ｲ)の合計が ９０％以上　Ａ　　８０％以上　Ｂ ７０％以上　Ｃ　　７０％未満　Ｄ	Ⓐ 前期：９７％	（成果と課題）定期試験前や長期休業中の学習会を部活動単位で実施したり、休業中の課題の提出状況を顧問が確認するなど、部顧問が積極的に生徒の学習を支援している。 （後期の扱い）部活動の時間が長すぎるという保護者の意見もあり、より効率的な部活動を運営し、生徒の家庭学習時間の増加を図る。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策）
２ 校訓「質実剛健」を不易のものとして、生徒の規範意識と自主自律心の向上を図り、高い意志を持ってたくましく生きる生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	・きちんとした頭髪・服装をしている ・積極的に挨拶をしている この２つの点について (ｱ) よくあてはまる (ｲ) ほぼあてはまる (ｳ) あまりあてはまらない (ｴ) あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が ９０％以上　Ａ　８０％以上　Ｂ ７０％以上　Ｃ　７０％未満　Ｄ	Ⓑ 前期：８９％	（成果と課題）本校生の服装・挨拶等については高い評価が与えられているが、十分とは言えない生徒も一部見受けられる。 （後期の扱い）部活動単位の朝の挨拶運動や清掃活動を通して、生徒の自発的な活動を推進していく。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール指導を行う。	自転車に乗車するときは交通ルールを (ｱ) いつも守っている (ｲ) だいたい守っている (ｳ) あまり守っていない (ｴ) ほとんど守っていない (ｱ)＋(ｲ)の合計が ９０％以上　Ａ　８０％以上　Ｂ ７０％以上　Ｃ　７０％未満　Ｄ	Ⓑ 前期：８１％	（成果と課題）東金沢駅から本校までの通学路に全教員が交代で立つ登校指導は実施３年目を迎え、生徒の乗車マナーも向上している。 （後期の扱い）登校中の事故は昨年度より減少したが、余裕を持って登校するよう生活全般にわたる指導を継続していく。
	③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。	①各部活動が設定した本年度の目標を達成することができたか。 (ｱ) 達成することができた (ｲ) だいたい達成することができた (ｳ) あまり達成することができなかった (ｴ) 達成することができなかった ②北信越等のブロック大会以上に Ａ　２０以上の部活動が進出 Ｂ　１５以上の部活動が進出 Ｃ　１０以上の部活動が進出 Ｄ　１０未満の部活動が進出	① ２月に調査 ②　Ⓒ 前期：１０部	（成果と課題）剣道部、陸上競技部のインターハイ出場を始め、前期までで６の運動部と４の文化部がブロック大会以上に進出している。 （後期の扱い）秋の新人戦や冬季の大会に向けて、効率的な部活動を展開していく。
	③ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	年間貸出冊数が Ａ　１５００冊以上 Ｂ　１２００冊以上 Ｃ　１０００冊以上 Ｄ　１０００冊未満	Ⓓ 前期：７５９冊	（成果と課題）今年度より本格的に開架し、ビブリオバトルやＰＯＰ講習会等各種の行事を展開している。 （後期の扱い）集団読書会や図書館セミナー等の取組を通して、さらに生徒の読書意欲を高めていく。
	④ 生徒面談シートを活用し、ＰＤＣＡサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に目標の達成に取り組む自律の態度を育成する。	①家庭学習時間が学年の目標値（学年＋１）に達している生徒の割合が Ａ６０％以上　Ｂ５０％以上 Ｃ４０％以上　Ｄ４０％未満 ②家庭でのスマホ使用制限を (ｱ) いつも守っている (ｲ) だいたい守っている (ｳ) あまり守っていない (ｴ) ほとんど守っていない (ｱ)＋(ｲ)の合計が ６０％以上　Ａ　５０％以上　Ｂ ４０％以上　Ｃ　４０％未満　Ｄ	① Ⓒ 前期：４３％ ② Ⓓ 前期：３８％	（成果と課題） １年生については、２０％の生徒がスマートフォンの利用時間が２時間を超えており、家庭学習時間の確保に影響を与えている。 ２年生についても、スマートフォンの家庭での使用制限を守る生徒は１００名ほどである。 （後期の扱い） 保護者の協力を得ながら、スマホ使用についての取組を継続していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策）
３ 教育目標達成のため、教職員自らが資質向上に励むとともに、学校の教育活動に参加する保護者の増加を図り、信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校経営がなされている。	いしかわニュースーパーハイスクールとして教職員の共通理解のもと、学校運営がなされていると感じる教職員の割合が Ａ　９０％以上　Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上　Ｄ　７５％未満	Ⓐ 前期：９４％	（成果と課題）会議の効率化や分掌業務の見直しに努め、各教員の生徒と向き合う時間が充実してきた。 （後期の扱い）ＮＳＨ推進課・進路指導課・教務課・各学年がさらに連携を密にし、生徒の進路実現に資する取組を展開していく。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高める。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができたと感じる教職員の割合が Ａ　９０％以上　Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上　Ｄ　７５％未満	Ⓐ 前期：９２％	（成果と課題）昨年度より推進してきたアクティブ・ラーニングの取組やＩＣＴの活用が教科指導に定着してきた。 （後期の扱い）引き続きＡＬの研修の機会を確保していく。
	③ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。	今年度、保護者が本校の学校関係の行事に参加した回数が (ｱ)　５回以上 (ｲ)　２～４回 (ｳ)　１回 (ｴ)　０回 (ｱ)＋(ｲ)の合計が Ａ　７０％以上　Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上　Ｄ　５０％未満	Ⓒ 前期：５７％	（成果と課題）桜高祭には例年より多くの保護者の来校があった。 （後期の扱い）３Ｓ歩行の協力者は今年度も５００名を超えており、保護者の教育活動への積極的な参加が定着しつつある。